
難破船はどこへ行く

アイリーン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

難破船はどこへ行く

【Nコード】

N9578K

【作者名】

アイリーン

【あらすじ】

映画『天空の難破船』のもうひとつのアフターストーリー。オレとキッドが出会って巻き込まれたあの行動のために、まわりの人々がオレのことを疑いだす。そして、江戸川コナンなんていう人物は戸籍上存在しないことがわかり……居場所がなくなったコナンはみんなのそこから逃げ出そうとするが、その時、あの発作が襲う！！みんなの目の前で新一に戻ってしまうのか！？

プロローグ(前書き)

皆さんはもう映画『天空の難破船』は見ましたか？キッドファンにはたまらないけど、ちょっと残念かも……

プロローグ

あの時は大変だった。

だけど、今はこれでよかったかと思っている。

鈴木ジロキチおじ様が怪盗キッドに逆挑戦状を送りつけて、

オレたちは空高く飛ぶ世界最大の飛行船に乗り込んだ。

こりないジジイだな、と思ったが、そういうオレも別の意味でしつこい。

あの時は焦ったよ。

3

キッドに蘭のあれを盗まれた、最初はオレになるはずだったのに・

なんてことになるところで、出ました!!

キッド秘奥義、寸止め!!

楽しい大阪までの優雅でちょっとドキドキなフライトになるはずだった。

大阪まで、ただ空を飛ぶ乗り物に乗って移動するだけのはずだった。

そう、テロリストにハイジャックされたことで

オレの正体がばれるまでは・・・

プロローグ（後書き）

出ました!!!

キッド様、秘奥義『寸止め』!!

ああ、この先を見なかったような見たくないような……

第1話 戦いの最中（前書き）

ちょっと間が空いてしまいましたが…感想ご指摘お待ちしております

第1話 戦いの最中

「工藤君がキッドだったの!？」

「まさか……だって佐藤さん、あの時工藤君とキッドは別の場所に同時にいたんですよ？ どう説明するんですか？」

“あの時”とは、もうすぐ移築されるといふ時計台をキッドが盗むと予告した夜、予告通り盗みに現れたキッドを新一が影から指示してあと一步のところで追い詰めた、まではよかつただけどずる賢さで上回ったキッドに逃げられた、というキッドと新一の初対面初対決の事件だった。

「ええ、その話しは目暮警部から聞いたことあるわ。でもね、高木君。私、なぜかすつきりしないの。彼が何か重大な秘密を隠してるみたいで……」

「ボクもキッド」工藤君と結びつけたくはありませんけど……でも仕方ないですね。可能性のある限り真実を明らかにしていくのが警察の仕事ですからね。ボクも気は進みませんが、手伝いますよ」

「ありがとう、高木君」

飛行船から遠ざかるヘリコプターの中で、佐藤刑事と高木刑事はいつまでも見えなくなるまで、飛行船の上で強烈な風に飛ばされそうになりながら踏ん張っているコナンとキッドを見つめていた。

「工藤君……キミはいつたい……………」

「え？」

「なんか言ったか、メガネのボウズ？」

コナンは何か誰かから問いかけられたような気がして、後ろを振り返った。

しかし、そこに見えるのは何もない空の雲の上を飛ぶ飛行船のプロペラ。

背中に一瞬電気が走るといっつか寒気がさすといっつか……

その直感にも近い何かを感じ取ったコナンは、不安を感じながらも自ら船内に通じるハッチを開けて、

テロリスト赤いシャム猫によってハイジャックされた飛行船と人質の蘭たちを解放すべく、中へ戻っていった。

第1話 戦いの最中（後書き）

みなさんは、今年の映画『天空の難破船』はどうでしたか？私はキッドの寸止めの部分はよかったと思いますけど…

第2話 蘭の疑問

(飛行船での事件を無事解決してから1カ月後)

蘭「あつ、米花デパートの屋上にアドバルーンが…」

園子「アドバルーンっていやあ、1カ月前のあの事件で、キッド様かっこよかつたわあ。さすが私のキッド様／＼／」

蘭「そうだね。いろいろあつたけど、だいぶ前のことのように感じるよ…まだ1カ月しかたつてないのに…」

蘭と大親友の鈴木財閥のお嬢さまの鈴木園子は、学校帰りの帰り道をうしろから暖かく吹く風を浴び、オレンジ色に染まった空を見上げながら帰宅していた。

蘭の長い髪が優雅に、そして可憐になびく。

一言ではつきり言うといわゆる美人なのだが、それがひとたび彼女を怒らすと、普通の人なら大袈裟を負う程の都大会空手優勝女だということだが、詐欺に見えてしまうのは気のせいだろうか？

園子「蘭、あんた自分じゃ気づいていないだろうけど、かなり男どもの視線を釘付けにしてるわよ？あぁ、工藤くんがしれないわ。こんな美人の奥様をほつたらかしてどこへ言ってるんだか…」

園子は蘭の隣でニヤニヤとまるでオヤジのように笑っている。

蘭「もう！！だから奥様じゃないってば！！それに新一とはこのあいだ…」

園子「えっ、新一くと会ったの!?!」

蘭「…ううん、なんでもない…」

園子「…?…?」

(キッドが新一なんかじゃないよね…?どうして最近連絡くれないの…?それは新一キッドだから…?それに、新一になりすましてた犯人を偽物だと暴いた時、あの鎖についてる新一の指紋と犯人の指紋が一致しなかったって…御守りの鎖、いつ触ったんだろう?触ったのはコナンくんだよね…?)

蘭はそう疑問をめぐらせていた。

それはどれも、工藤新一江戸川コナンだとしか考えられないような方程式。

ほかの可能性を説明する方が難しくなるような確実性。

ホントに、コナンくんは新一なのだろうか？

もしそうだとしたら、新一がいなくなった途端にコナンくんが現れる謎も説明できる。

だけど、人間の体がそう簡単に伸び縮みするなんて…

新一は何か悪い病気にでもかかっているのだろうか…？

今度会ったら聞いてみよう。

直接でないと、意味がないから……

(コナン side)

その頃コナンたち少年探偵団も、またいつものように学校から帰宅するところだった。

たわいもない話をしながら自宅へと向かう。

その“たわいもない話”というのが未解決の殺人事件の話だなんて、こちらも普通の小学生ではないが…

コナン「まったく、なんでアイツらそんな話してんだ？小学生だろ」

哀「あら、そうしたのはあなたじゃなくて？工藤君？」

コナンは、ずばり言った灰原になにも言い返せないでいた。

地面を地団駄踏む。

哀「工藤君、あなた子供ね……」

コナン「バーロ、お前だつて子供じゃねえか」

哀「ああそうそう。私、これから用があるから先帰るわね」

灰原はコナンの呼び止めも聞こえないふりをして、なぜかまわりをキョロキョロ警戒しながら自宅へと走っていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9578k/>

難破船はどこへ行く

2010年10月8日23時18分発行